

How to Create Abstract Garden

1 日本庭園の特徴

1・1 日本庭園は世界的に見ても珍しいタイプの表現方法である

日本庭園の素材は自然物であり、しかもその出来上がった造形も自然を写している。しかし、単に自然の造景を写しただけでは箱庭的な自然物のコピーであり、芸術とは言い難い。そこで、日本庭園の造景は自然の中のポイントとなる要素を抽象化するのである。自然を写しながらも抽象化された自然だ。このような創作分野は日本特有の自然に対する畏敬の念に由来していると思われるが、世界的な基準に照らして芸術と言えるためには、高度に抽象化される必要がある と考える。

1・2 日本庭園が芸術であるためには【中田勝康著『重森三玲 庭園の全貌』より抜粋】

庭園芸術の評価が難しい理由の一つは、素材が自然にある石、草木、砂、水であり、しかも、それらを使って造形された作品も、やはり何らかの意味で自然の風景であると言う点にある。多少下手な造形であっても、山や川があり、自然らしく作られていれば、ある程度の満足を得ることが出来るだろう。いわゆる自然の縮小コピーである。しかし、自然らしさを楽しむのであれば、自然そのものを楽しめば良いのであり、自然そのものに勝るものはない。庭園が芸術であるためには、自然の素材を使いながらも自然を超えた形を創造すること、言い換えるなら、あるがままの自然ではなく、人が感じた自然、単なる自然を抜け出した、自然を超えたものを創造することが必要である。

庭園と類似の芸術として、「いけばな」を考えればもっと明瞭である。素材は草木であって、神の作った自然そのものだ。この自然の素材で自然を超えた形を創作することは、一見簡単ようで非常に難しい。もちろん、無造作に花を生けても、それなりに美しい情景を得ることができる。しかし「いけばな」が単なる自然ではなくて、芸術であると考えられているとすれば、そこでは、花が作者によって自然から切り離され、改めて作者が作り上げた独自の自然が再構築されていなければならない。言い換えるならば、「自然を一度解体して、作者による新しい造景を再構築」することである。造園や「いけばな」のように造形物が自然に近い分野の創作活動は、素材は自然であっても、造形は自然を超えたものにする必要がある。出来上がった造形物に感動を覚える理由は、生の自然の美しさにあるのではなく、その造形物に創造性があるからである。

なお、日本庭園に求める理想像を「癒される」「落ちつく」「しっとりとする」を求める場合は自然の野山に勝るものはない。ここでは日本庭園に芸術的な造形を求める との考えからの区分である。

2 日本庭園の全体像の把握

日本庭園を論ずる場合、個々の庭園を解釈するのではなく、まずその発生から考察し、外来思想の影響を受けながら多様化したと考える。これらの流れを以下のような系譜図で俯瞰的に把握すべきであろうと考える。

2・1 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜区分

2・1・1 系譜区分の基準 日本庭園を網羅的に示せば、ほぼ以下の5系列の系譜になる。

①神仙蓬莱庭園の系譜：亀島・鶴島・洞窟の造形で、飛鳥時代から現代まで続く縁起の良い庭。

②広大な池泉庭園の系譜：広大な敷地の池泉庭園であり、いわば覇者の庭とも云える庭を5区分した。

【①極楽浄土の庭・②寝殿造りの庭・③宮廷の庭・④大名の庭・⑤自然主義風景の庭】

③抽象枯山水庭園の系譜：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園を3区分した。

【①禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲】

④石組み構成美庭園の系譜：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

【①戦国武将の庭・②安土桃山時代の庭・③石組み構成美の庭】

⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜：小堀遠州に端を発したこの種の庭園は重森三玲によって充実した。しかし日本庭園としての歴史は浅いが、人類の普遍的な価値に適うと考え申請対象とした。

日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜と具体例の写真を以降に示す。

2・1・2 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜図(青太文字は写真例示)、なお(半べえ)重森庭園は参考まで

時代	①神仙蓬莱系譜	②池泉庭の系譜	③抽象枯山水系譜	④石組構成美系譜	⑤幾何学模様系譜	外来思想
	日本古来の石造造形					
縄文	盤座	水辺祭祀	古墳			
弥生	松尾大社	城之越遺跡	築山古墳			
古墳						
飛鳥	飛鳥京跡					神仙蓬莱
奈良・平安・鎌倉時代	① 神仙蓬莱系譜	② 広大な池泉庭園の系譜	③ 抽象枯山水庭園の系譜			極楽浄土
		東院 毛越寺	蘭溪道隆 龍門寺			禅宗思想 (水墨画)
		浄瑠璃寺	夢窓疎石 西芳寺 天龍寺			
室町時代			保国寺 雪舟等楊 常栄寺 普賢寺 子建西堂 龍安寺	④ 石組み構成美	朝倉遺跡	
桃山	旧秀隣寺				北畠神社	水墨画
					常栄寺	
					岐阜城	
					萬福寺	
江戸	金地院	② 広大な池泉庭	③ 抽象枯山水	の系譜	⑤ 幾何学模様	
		桂離宮 小石川後樂園	金地院 桂家 福田寺 久留島家 東海庵	上田宗箇 徳島城 青岸寺 阿波国分寺 粉河寺	金地院 仙洞御所 芝離宮	
						ヨーロッパ 自然主義
明治～昭和	村上家 福智院	園の系 (半べえ) 平安神宮	庭 東福寺 岸和田城 前垣家 興禅寺 龍源院(鍋島)	松尾大社 小河家 織田家 瑞応院 漢陽寺	光明院 岸和田城 漢陽寺 前垣家 清原家	ヨーロッパ 抽象主義 芦田家 旧友琳会館 住吉神社 石像寺

2・1・3 各系譜の具体例の庭園写真 5つの系譜ごとに具体的な庭園例を以下に示す。

①神仙蓬莱庭園の系譜：道教の影響下に形成された神話で、不老不死、亀島、鶴島である。



飛鳥京跡苑池 (明日香)



旧秀隣寺 (滋賀県高島市)



左側より亀島・蓬莱山・鶴島：金地院 (京都市)

②広大な池泉庭園の系譜＊：広大な敷地の池泉庭園であるが、各時代の風俗や宗教の影響を受け時代ごとに変化する。その原点は奈良時代の①極楽浄土の庭の庭に始まり、平安時代になると②寝殿造りの庭になり、江戸時代には③宮廷の庭や④大名の庭になり、大正時代には⑤自然主義風景の庭に発展してゆく。



①極楽浄土の庭：東院



①極楽浄土の庭：毛越寺



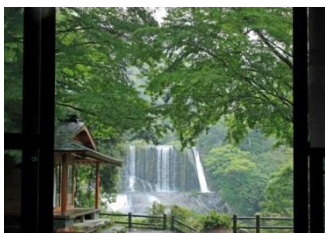
④大名の庭園：小石川後楽園



⑤自然主義風景の庭：平安神宮

③抽象枯山水庭園の系譜：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園を3区分した。

①鎌倉時代の禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲 (現代)



①禅宗の舶来：龍門寺



①禅宗の渡来：常栄寺



①禅宗の舶来：龍安寺



②龍安寺以降：福田寺

④石組み構成美庭園の系譜：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

①戦国武将の剛健な庭・②安土桃山時代の絢爛豪華な庭・③石組み構成美の庭



①戦国武将の庭：岐阜城



③石組み構成美の庭：青岸寺



③石組み構成美の庭：国分寺



③石組み構成美の庭：粉河寺

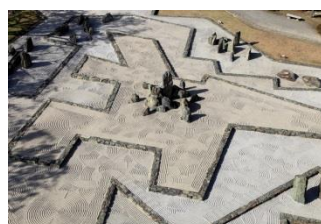
⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜：小堀遠州に端を発したこの庭園は重森三玲によって充実した。



小堀遠州：金地院



小堀遠州：仙洞御所



重森三玲：岸和田城 (S28)



重森三玲：漢陽寺 (S48)

2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。

ここでは「**日本庭園が芸術であるためには、世界基準にかなう造形性と抽象性**」の視点で考える。

2・2・1 抽象化度による庭園の区分の定義

①抽象的造形

- ①完全な抽象造形(自然の風景と関係ない龍安寺の世界)
- ②人工的造形(重森の造形)(自然の風景を高度に抽象し、自然には無い直線や曲線の形や色の造形)

②象徴的造形(物語や自然の風景をデフォルメした、やや抽象化された造形)

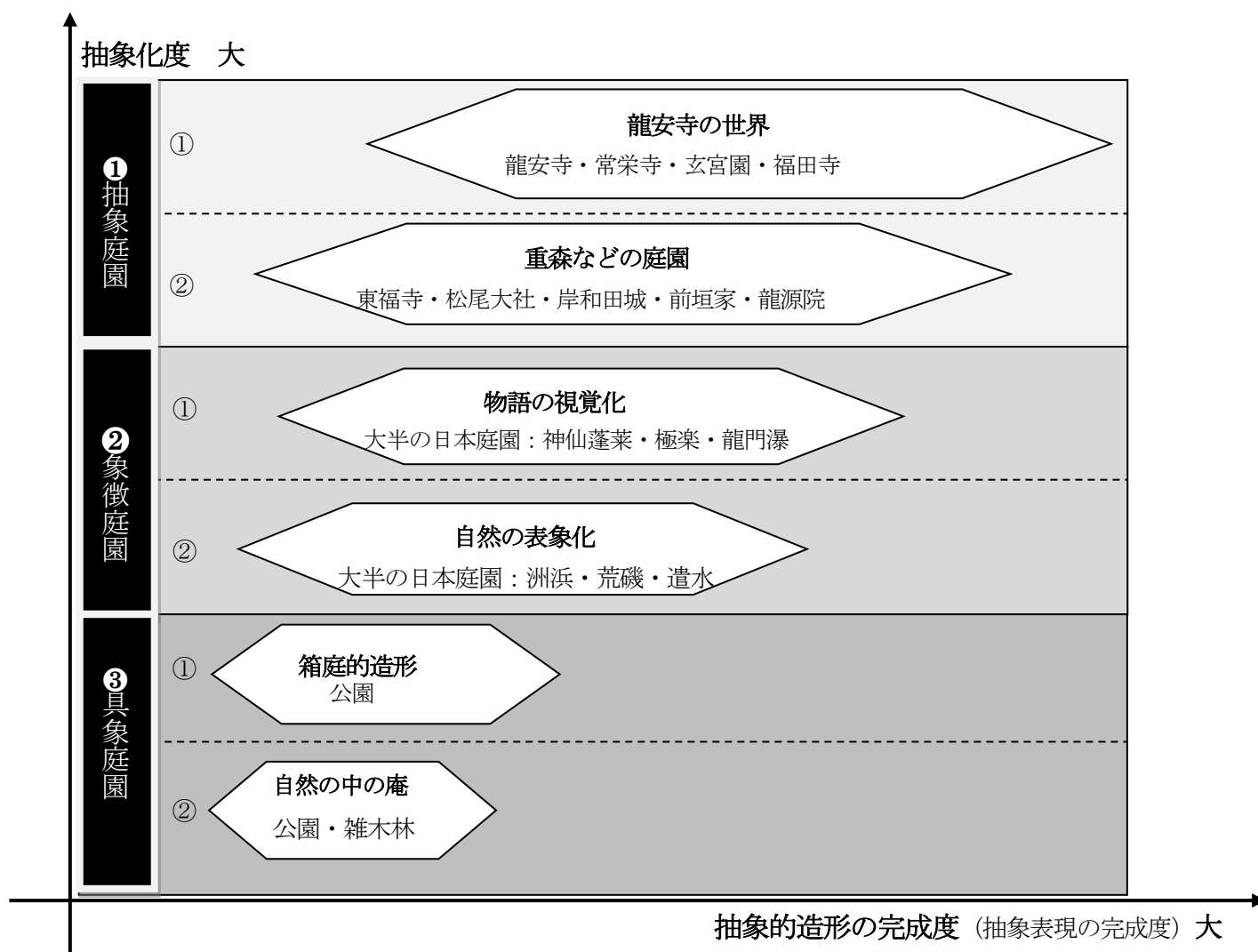
- ①**神話・仏典の物語を視覚化した造形**(例えば蓬莱山・須弥山・極楽など)
- ②**自然風景の表象化(デフォルメ)した造形**(例えば荒磯・洲浜・遣水など)

③具象的造形

- ①箱庭的に自然を模倣した造形(自然の要素を取捨選択せずに、あれこれ取り込んだ造形)
- ②自然の中にある庵・東屋の風景(自然そのものを眺める田園風景)

2・2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念図

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。ただし、抽象化度の高い庭園は抽象思想を造形化することが困難なため、多くの日本庭園は下図に示したような象徴庭園の部類に属している。なお日本庭園は不可逆的に抽象化を目指したのではなく、試行錯誤の末、龍安寺の抽象庭園。



2・2・3 庭園における抽象度の写真例

① **抽象的造形**: 具象的・象徴的な造形ではなく、自然界や神話などを想起させない、抽象度の高い造形を例示す。

①・①完全な抽象造形の庭: 具体的な自然物や象徴ではない、全くの人工的な造形空間構成の優れた庭

A 古典庭園の例



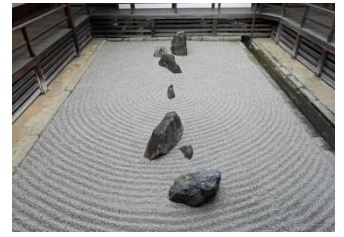
龍安寺: 抽象化された石組



桂家: 奇想天外な創作造形



久留島家: 自然界の人工美



東海庵: 四方正面の抽象庭



朝倉館跡: 芸術的護岸



福田寺: 抽象した逆遠近法



玄宮園: 重厚な単純化石組



芝離宮: 造形化された石組

B 重森三玲（鍋島岳生）の世界



東福寺: 護岸のない抽象神仙島



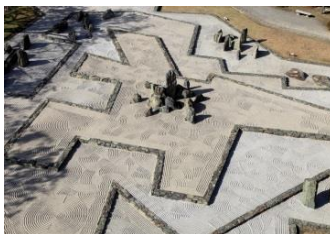
前垣家: 極小の抽象庭園



松尾大社: 自由な石組み



織田家: 豪快無比の単純化



岸和田城: 抽象的屈曲線



興禅寺: 抽象造形と自然界との好対照



小河家: 須弥山を超えた抽象造形



龍源院（鍋島岳生 S35）

①・②人工的造形: 自然を高度に抽象し、自然には存在しない直線や曲線の形や色の造形の庭を作った。

a 洲浜・網干・網代模様の造形化: 重森は自然の風景の造形化に努めた。



光明院: 抽象された枯洲浜の原点



清原家: 抽象絵画状の庭



小河家: 抽象的延段・竹垣



前垣家: 高度に抽象された洲浜



横山家: 象抽的石列



芦田家: 護岸の無い神仙島



旧友琳館: 地上に描かれた小袖



小倉家(S26): 自然と人工の拮抗

② 象徴的造形

②・①神話・仏典・禅語録などの物語を視覚化した造形（蓬莱山・須弥山・極楽・九山八海など）

A 古典庭園：中国では既に秦・漢の時代から神仙蓬莱の庭を再現した。日本では鎌倉時代以降は立体造形が多い。



龍門瀑：西芳寺



龍門瀑：天龍寺



龍門瀑：保国寺



龍門瀑：普賢寺



九山八海：北畠神社



九山八海：萬福寺



鶴亀蓬莱：旧秀隣寺



坐禅石：西芳寺

B 重森三玲：重森は物語をテーマに採用しているが、目には見えない説話など抽象的、動的、重厚である。



二十五菩薩来迎図：瑞応院



四神相応：石像寺



鶴亀蓬莱・石梁飛瀑：漢陽寺



住吉神社：抽象された三波



漢陽寺：地藏遊戯の説話



福智院：抽象化された護岸の神仙蓬莱の庭



村上家：抽象化された鶴島の鶴亀蓬莱庭園

②・②自然の風景を表象化した造形（自然をデフォルメした造形で洲浜・荒磯・遣水・曲水など）

鎌倉以前の庭園の造形は自然の風景をデフォルメする試みが大半である。例えば洲浜・遣水・荒磯である。



栗石の洲浜：東院



苔地の洲浜：毛越寺



苔地の洲浜：西芳寺



苔地の洲浜



栗石の洲浜：桂離宮



荒磯：浄瑠璃寺



荒磯：天龍寺



曲水：毛越寺

③具象的庭園：この種の庭は公園とか河川敷にあるが、芸術性を論じることが出来ないなので、例示しない。

3 重森三玲による「永遠のモダン」の創作(庭園は各時代脱皮し続けてきたが、重森の革新的要素も記す)。
 3・1 日本庭園は古来より池泉庭園であったので、護岸石組からは離れることが出来なかった(古代～江戸)。

3・1・① 古典の池泉庭園からの影響: 池泉庭園の護岸は土波→栗石→部分的石組み→石組尽くし と変化した。
 当初は自然風景の抽象化(表象)による洲浜・荒磯・岬・曲水などの平面的な造形で護岸の造形は殆ど土波であったが、
 禅宗の渡来で苔寺・天龍寺で部分的石組みが始まり、金閣寺葦原島を經由して、二条城で護岸造形の極致に至る。



東院: 国家的事業



大沢の池: 土波



毛越寺: 土波



称名寺: 土波



苔寺: 土波



天龍寺: 滝の横に土波



二条城: 護岸石組みの極致

3・1・② 鎌倉・室町時代の立体造形

鎌倉・室町時代になると中国からの禅宗や水墨画の影響で、傾斜地や山畔に禅宗の説話を視覚化した龍門瀑などが作られた。雛壇状の石組みは躍動的な立体造形になったが、現在の目で鑑賞すると龍門瀑造形にマンネリしている。



西芳寺(1339): 龍門瀑



天龍寺(1339): 龍門瀑



金閣寺(1397): 龍門瀑



保国寺(1400): 龍門瀑



常栄寺(1470): 龍門瀑

3・1・③ 応仁の乱後の枯山水庭園: 比較的小さくて平坦な所に作られた(平庭式抽象枯山水庭園)

室町時代での応仁の乱(1467～1477 年)の後には、財政的にも負担が軽い、護岸のない小さな枯山水庭園になった。



龍源院(1520): 須弥山



龍安寺(1537): 抽象



聚光院(1566): 環状石組



願行寺(1567): 抽象



大仙院(1580): 後世改変

3・1・④ 安土桃山～江戸初期

上田宗箇の徳島城(1602)や小堀遠州の金地院(1632)による枯山水庭園は、護岸が無いことは当然で、神仙島への積極的な石組が明確になった。一方、池泉庭園の護岸石組は、二条城にてその極致に至り、護岸の修景は終焉し、護岸工事は土波、栗石などに簡略化され、その代わり築山上への石組(芝離宮)や池中への抽象石組(玄宮園)、また六義園や栗林公園は護岸を土波にして陰陽石を目立たせた。一方、禅式庭園として桂家や東海庵では龍安寺式の抽象枯山水も生まれ、更に江戸末期には粉河寺・阿波国分寺・久留島家の豪快で躍動した庭が生れる多様な時代であった。



徳島城: 鶴島への石組(1602)



金地院: 鶴島への石組(1632)



玄宮園: 池中に石組(1677)



芝離宮: 築山に石組(1686)



六義園: 陰陽石主体(1703)



桂家(1712): 抽象枯山水庭園



東海庵(1814): 江戸の龍安寺



久留島家(1830): 迫力



粉河寺(1773): 躍動



阿波国分寺: 廬山の風景

3・2 昭和になると重森三玲による枯山水庭園の革新がなされる。

以下に①古庭園の伝統の革新 ②ヨーロッパ抽象主義の影響による新しい造形の創作 に分けて記述する。

① **重森の護岸無き神仙島**: 枯山水庭園は、護岸機能の石組みから解放され、**芸術的造形が可能になった**。

古来の石組みの伝統から脱皮: 護岸無き亀島等は小堀遠州等が開拓したが、重森は護岸無き神仙島に自由な石組。



東福寺: 神仙島護岸無し



光明院: 護岸のない庭



小倉家: 三神仙島



芦田家: 洗出しの造形



旧重森家: 護岸なき島

② ヨーロッパ抽象主義の影響: マチス、カンデンスキーの影響で直線・屈曲線・曲線・曲面への単純化・色彩化。

重森(27 歳)は大正12年発刊の『文化大学院 現代文化思潮講義録』第一回 第十三号の中に以下のように記した。

・**アンリー・マチス**を以下のように述べている。

「形の単純化、それが後期印象派の一面の芸術的心理であるとすれば、この単純化が最も徹底したのが彼マチスの芸術であらう。……それが為に表現の単純化は形に於いてのみでなく、又色彩に於いてもそうであった。……、対象を極度に自己のものとして表現したからである。」

・**カンデンスキー**の引用文を記載している。

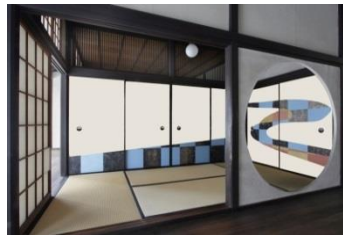
「最高の芸術は物象形而より離脱し、或る線條と色彩とを用いて自己の感情象徴したものでなくてはならない。そして之等の芸術美は、精神の象徴的表現そのものに他ならないのです」



村上家(S34): 切り絵の襖絵



同左: 杉戸の造形



桑田家(S34): 流水模様



小河家(S35): 流水模様

重森のモダン庭園: マチス・カンデンスキーの抽象主義に傾倒し、**直線・屈曲線・曲線・曲面&色彩**に影響した。



岸和田城(1953): 屈曲線



清原家(1965): 地上の絵画



友琳会館(1969): 曲線・色彩



漢陽寺(1973): 直線と色彩



興禅寺(1963): 大自然を抽象した



天籟庵(1969): 一木一草無き露地



石像寺(1972): 四神相応の色彩化